

いよいよ冬本番が近づいている札幌です。今年も大通公園で『さっぽろホワイトイルミネーション』が開催され、12月25日迄の毎日16:30-22:00に様々な色の光のオブジェを見る事が出来ました。

同時開催された『ミュンヘン・クリスマス市』ですが、去年や一昨年はコロナの影響で飲食関連は自重されていましたが、今年は2年振りに規制なく実施されました。札幌・ミュンヘン姉妹都市提携50周年記念に当たることもあり、賑やかな開催となりました。

実は日本で最初のイルミネーションとして1981年に始まり、冬の札幌を彩るイベントとして今回で第42回目の開催となりました。一層華やかさを感じ、特に大通2丁目はミュンヘン・クリスマス市とイルミネーションがコラボされていた事で多数の人々が集まり、楽しんでいました。

基本的な感染拡大防止対策を行いながらとなりましたが、クリスマスの2日間はイルミネーションも24時迄点灯されていたので、恋人たちのデートスポットになっていました。

札幌営業所(所長:利川 光浩)

那須岳・茶臼岳に登頂してきました。標高1,950mと低山ではないが程よい高さとの情報を元に、山頂目指してみました。

当日天気予報では晴れのち曇り、降水確率も0%で最高6度最低0度でしたので、山頂付近は寒いと予想し、冬並みの装備で臨みました。結果は立ってられないほどの強風に見舞われました。登頂した時点ではガスガスで見晴らしが悪かったのですが、下山しはじめて8合目あたりから晴れ間が広がり、とても良い景色を眺めることが出来ました。

那須連山火山岳という事もあり、山頂付近から大きな石や岩がごろごろ転がった岩場と勾配もきつく、上も横も見えづらい状態でしかも強風にあおられながら手で岩を掴み登っていくという忙しい場面もありましたが、おそらく見晴らしがいい時なら、難なく登れたと思います。また、チャレンジしてみたいと思う山でした。

東日本物流センター 東日本営業本部(センター長:木下 敦裕)



世界の拠点から

-From the base in the world-



皆様いかがお過ごしでしょうか。今回は岐阜県の『小里川ダム』周辺を紹介いたします。

小里川ダムは、岐阜県瑞浪市と恵那市にまたがる、庄内川支流の小里川に作られた国土交通省直轄のダムです。小里川はもともと氾濫が多く、被害を防ぐためにダムが計画され1979年に着工し、2004年に竣工しています。ダムによって形成された人造湖・おりがわ湖周辺の景観がダムから望めます。

ダムの管理所には小里川ダムふれあい館があり、ダム内部を一般公開していてダム堤体内部を見学することができます。(残念ながら現在はコロナ感染対策のため、堤体内部は見学できないようです…)

また近隣には『おばあちゃん市・山岡』という道の駅があり、シーズンには栗おこわ定食、自然薯定食などの手作り感のあるおいしいランチをいただけます。栗おこわを目的で行きましたが、あいにく品切れで食べられませんでした。おふくろの味定食をいただきましたが、こちらも美味しかったです。

皆様も機会があれば、ダム散策の後に美味しい定食を食してみたいはいかがでしょうか。



名古屋営業所(所長:高橋 鉄夫)

コーヨーの季節が来ました。と言っても弊社ではなく『紅葉』の方なのですがね。オヤジギャグはさておき、関西も紅葉の名所が多々あります。今年は滋賀県の『西教寺』と言うお寺に行ってきました。

ここは滋賀県大津市、比叡山の近くで100台の駐車場も完備。明智光秀と一族のお墓がある事でも有名です。ちょうど訪れた時は『もみじ参道通り抜け』が行われていて、門をくぐると緩やかな上り坂の両脇にもみじの並木が続きます。真っ赤に燃える紅葉で、写真を撮ったり眺めたりで登りなのに疲れを感じさせない。上り坂の突き当りを左に進み、階段を登ると宗祖大師殿があり、そこから下を見下ろすと琵琶湖が見えます。紅葉と琵琶湖のコラボもキレイでした。その奥の本堂を抜け、明智光秀公と一族のお墓もお参りしてきました。

大阪営業所(所長:藤谷 弘行)

冬の寒気が身に染みる頃となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか?コロナ、インフルエンザと流行性感冒が流行る季節ですのでくれぐれもお気を付けください。

12月と言えば…『漢字の日』というものがあります。公益財団法人日本漢字能力検定協会、漢検が1995年に制定したそうです。

さていきなりですが、ここで問題です!福岡営業所近くの地名、いわゆる『難読地名』を並べていきます。1、東雲 2、雑餉隈 3、立花寺 4、対馬小路5、女原 6、御供所町 7、周船寺 8、柑子岳 9、高祖 10、馬出…。こちら10問です。ちなみに私は10問中、6問が正解でした(笑)

順に答えを並べていくと、しののめ、ざっしょのくま、りゅうげじ、つましょうじ、みょうばる、ごくしょまち、すせんじ、こうしだけ、たかす、まいだし…です。たまにはこんな遊びもおもしろいかもかもしれませんね。

また年末になると、「一年を振り返って、今年の漢字を一文字にすると…」と、メディアから流れるのを耳にしたいと思います。『今年を表現する漢字』ですね。私にとって今年には『耐』という字が頭の中に連想できたのですが、皆様はいかがだったでしょうか。来年は、『喜』『幸』『笑』など前向きな一文字が連想できる良い一年になることを切に願いたいと思います。

福岡営業所・沖縄配送センター(所長:江頭 慎司)

KJIでは通常、年一回の社員旅行を行っています。ですが2020年、2021年にはコロナ禍の影響があり、2年も社員旅行を行っていませんでした。

今年の後半、コロナ禍がある程度収まってきていたこともあり、社員たちの代表である組合幹部から社員旅行を実施したいとリクエストができました。今までの社員旅行というと、配偶者や子供たちといった社員の家族も参加し、計2,500人ぐらいで何台かのバスを借り、日帰り旅行を行っていました。ですがコロナ禍が完全に収束していない中で、何千人の集まり、さらに何時間もバスで移動すると考えるとやっぱり心配でした。組合と話し合いの結果、今回は旅行ではなくホテルの大広間を借りて社員たちだけで何かの行事をするのはどうですかという案が出ました。

そして社員たちのモチベーションを上げるために先生を呼んでセミナーを行うことになりました。セミナーの中には歌を歌ったり、ゲームや、抽選くじ、亡くなったKJI社員の子供たちに寄付をする行事などがあり、亡くなった社員の名前が出る度、顔が思い浮かんで悲しくて少し涙気味でした。

朝8時から夕方16時まで、社員たちは今までと違った行事を行い、とてもハッピーでした。2023年にコロナ禍が収束し、家族も参加できる社員旅行を行えることを社員みんなが願っています。

KJI(インドネシア)(工場長:S.Akhyar)

～鶏が丸ごと一匹～

会社へ行こうといつも通り部屋を出ると、棟の1階のドアに防護服の警備員数名。部屋へ戻れと促され、尋ねると棟内でコロナ陽性者が出たため、棟内の住民は全員自宅隔離せよと。11月末のことでした。

住民は5日間の自宅隔離となりましたが、陽性者が私と同じ階の人で、階の住民は隔離専用のホテルへ連れられ、1週間のホテル隔離となりました。隔離中は文字通り24時間一歩も部屋を出ることができません。食事は1日3回の中華弁当です。そして毎日のPCR検査と検温、消毒。会社や学校へも行けず、飲みにも行けない退屈な日々が続きます。運動不足解消のため、部屋の中をジョギングする日が1週間続きました。その後アパートへ戻るとさらに3日間の自宅隔離です。

外出規制のため政府から食材が支給されました。ジャガイモ、トマト、豚肉など。さらにもう一つちょっと重たい袋。見ると中には鶏が丸ごと一匹。これどうすりゃいいの?仕方がないので、鍋に丸ごと入れて、塩、胡椒など思いつきの調味料で鶏鍋にしました。鶏が新鮮なのか、想像以上にウマイ鍋になりました。めったにできない貴重?な隔離体験でしたが、二度は味わいたくない体験です。

諸外国に比べると非常に厳しいコロナ政策ですが、この先、徐々に緩和されていくともいわれており、早く正常な日常に戻ってほしいものです。

KHE(中国・蘇州)(総経理:山本 博史)

時間が経つのは早いもので、日本は季節も変わり、年末を迎えるころでしょうか?本年もありがとうございました。

ここカリフォルニアは数か月前よりはだいぶ寒くなってきましたが、それでも日中は半袖で過ごせる毎日です。そしてアメリカはホリデーシーズンを迎えました。サンクスギビング(感謝祭)、クリスマス、ニューイヤーと続いていきます。国の祝日はそれぞれ1日だけですが、企業などは前後まとめて祝日扱いにしたり、個人でも休日を取ったりする人も多いようです。

サンクスギビングの翌日からクリスマス・ショッピングが始まります。最近日本でも聞いたことがあるかもしれませんが『ブラックフライデー』が有名です。『ブラックフライデー』とはサンクスギビングの翌日の金曜日の事で、その日より大規模なセールが行われます。名前の由来は、買物客が殺到して交通

規制のため警察官が休みを取れなくなったことから皮肉の意味を込めて『真っ黒な金曜日』と名付けたのが始まりらしいです。その後売上が黒字になるという意味で『ブラックフライデー』という解釈を新聞社が発表してから現在はこちらの意味が定着しているそうです。

さらに最近では感謝祭から自宅や職場に戻った人たちがオンラインショッピングをすることによって、次の月曜日にオンラインの売上が急増することから『サイバー・マンデー』と呼ばれ、オンラインでも各社セールを実施しています。日本も某企業がクリスマスケーキを発売して現在に至っていますが、アメリカの『サイバー・マンデー』も習慣になるのでしょうか?

この数年はコロナ禍でオンラインショッピングが多い傾向でしたが、コロナは過去の事になった今年はどうなったのでしょうか?

KCS(アメリカ)(COO:板垣 仁志)

ワールドカップフィーバー。シンガポールの多くのサッカーファンは、サッカーを観戦するためにS\$100(日本円で約10,000円)を支払っています。準決勝と決勝を含む9試合が無料公開されましたが、真のファンにとっては十分ではありません。彼らは、64試合すべてを観戦するために料金を支払うことを選択しました。私自身もサッカーファンですが、早朝の生放送を見るのは難しいので、わざわざ料金を払うことはありませんでした。

ひとりでサッカーの試合を観戦することは、決して楽しいものではありません。人の叫び声と声援が試合の一部になり、緊張と興奮が増していきます。公開された9試合の観戦は、シンガポール中のいくつかのコミュニティクラブでも開催され、多くの人が集まり、準備された大画面で見ることができました(コロナ検査は不要で、ソーシャルディスタンスもありません)。各チームのファンが交流し、チームをサポートする様子を見るのは楽しかったです。

誰もが知っているように、アルゼンチンはサウジアラビアとの開幕戦で衝撃的な敗北を喫したにもかかわらず、トロフィーを獲得しました。すべてのアルゼンチンのファンに、これは苦勞して得た結果であり、当然の結果だと伝えたいです。

いよいよ年末が近づいてきました。2022年に成し遂げた事を振り返り、来る2023年に向けて最善を尽くす準備をして、皆様の新年のお祝いをお祈り申し上げます。

KIO(シンガポール)(E.Wong)

私が書く最初の拠点便りなので、自己紹介をします。私の名前はFerri Visserです。42歳で、妻と2人の子供と一緒にオランダに住んでいます。子供の頃から車に興味があったことが、自動車関係の仕事をする理由です。車は仕事であり、趣味でもあります。

私の最初の目標は整備士になることでした。技術や一般教養を学んだこの期間はとても素晴らしく、力学への関心の始まりとなりました。次に、セールスマンになるように頼まれましたが、私は典型的なセールスマンではないため、いつも苦勞しました。

その後カーアクセサリー会社で働くようになりました。そこではスタイリングパーツと呼ばれるものを製造していました。これらはヨーロッパ中の自動車輸入業者に販売されていたため、『OE』商品として見つけることができます。ここで私は国内販売および開発としてスタートし、その後数年間で知識を増やし、マネージャーになりました。

次に、エンジン冷却および空調部品を製造するメーカーで約12年間働きました。ここでは複数の役割を担っていました。最初は製品開発のメンバーでしたが、後に技術サポート、ヘルプデスク、返品と保証、特注品・専門家への販売と様々な取り組みをしました。

そして今年の11月からKIOオランダでセールスマネージャーとして働いています。今までの経験を活かし、たくさんの方に挑んでいきたいです。この冒険がどこに繋がるのかとても楽しみです。今後、拠点便りを通じてもっと知ってもらえたらと思います。またお会いしましょう!

KIO(オランダ)(Ferri Visser)